

沖縄作戦に於ける

独立混成第44旅団工兵隊史実資料

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

部隊経歴の概要

昭和19年6月頃 動員完結出帆の富山丸遭難事件分動員
関係月日詳細不明(残存者20名)

8月15日 西部第22部隊にて動員完結
18日 同隊発
自 18日
至 27日 鹿児島高等女学校に於いて待機
28日 鹿児島港大信丸にて出帆
8月29日 大信丸火災のため大島名瀬港不時着港
9月 1日 名瀬国民学校に宿営
2日 名瀬港厦門丸にて出帆
4日 名瀬港着
9月13日 国頭伊豆頭に移動
12月上旬 八重岳に移動
下旬 中頭屋宜に移動
昭和20年2月上旬 島尻糸数に移動
3月23日 甲号戦備下令
5月 4日 首里の戦闘に参加
29日 島尻南部与座、仲座に転進戦闘に参加
6月 6日 独混第15連隊に配属
16日 同日頃より中隊の戦闘機能消滅
26日 解隊

戦闘経過の概要 其の1 自3月23日 至4月1日

- 1 昭和20年3月23日朝突如南方上空より敵機の大編隊現出し0700頃より爆撃を開始す。
特に海岸地帯及び海辺部落に指向せらる軍は直ちに甲号戦備下令中隊は戦闘準備を完備せり。
- 2 翌24日 湊川南方海上に敵巡洋艦現出艦砲射撃を開始せり、主射向は湊川、仲栄真、カチャ原及び知念附近なり。
- 3 3月24日 堅実守備地域内は艦砲及び爆撃に依る攻撃を受けたり。
中隊は其の間極力損害を避けつつ昼夜兼行旅団戦闘指揮所並びに陣地の補強構築障害物等の設置特に戦車障害施設に全力を注げり。
- 4 3月27～28日0700頃より湊川海面に陽動的偽上陸を実施せり。
- 5 4月1日 敵は本島北谷、桑江附近より上陸を開始せり其の兵力約3～4ヶ師団なるものの如し。

戦闘経過の概要 其の2 自4月3日 至4月30日

要図その1、その2 省略

- 1 4月2日 第62師団正面の戦況不利なるため、中隊の1小隊(井上隊)は与那原附近に在りし第2歩兵隊第3大隊の指揮下に入る可く同夜高平に向かい転進す。
- 2 4月5日 旅団命令に基き1小隊(久保寺小隊)は高平に在りしも旅団司令部援護の命を受け中隊の隷下を離れ、旅団の指揮下に入る可く同夜高平に向かい転進す。
- 3 中隊は1ヶ小隊(吉田隊)及び指揮班を以て糸数に位置し先ず旅団戦闘指揮所諸施設交通整理に任じたり。
尚吉田隊は湊川方面より上陸する敵に対し斬り込隊としての命を

受く。

- 4 4月9日 久保寺隊は原隊に復帰し引続き糸数東方慶良原に於いて垣花方面より攻撃を予想する敵に対し中隊の第一線として陣地構築補修並びに戦車障害施設の設置に努めたり。
- 5 4月18日 井上隊原隊に復帰し引続き中隊陣地構築補強並びに警備に任ず。
- 6 4月24日 1ヶ小隊(吉田隊)は第2歩兵隊を援護すべき旅団命令に基き中隊の隷下を離れ同隊の指揮下に入る可く同夜与那原に向かい転進す。

戦闘経過の概要 其の3 自5月1日 至5月6日

要図其の3 省略

- 1 新作战の為中隊は譏名に転進の命を受け同夜譏名に向かい転進す。
- 2 5月2日 吉田隊も譏名にて原隊に復帰し全員の志気大いに挙る。
- 3 5月2日 軍は5月4日を期して攻勢に転ずるに決し其れに関する命令を受領す。
- 4 5月4日 中隊は首里北方140、150高地附近に進出し旅団司令部を援護すべき命令を受けたるを以て進出し待機しありしが不幸第24師団の攻撃不成功となりしため遂に前線整理の命に依り譏名に後退す。
- 5 5月4日 中隊は150高地に於いて最初の犠牲者数名の重軽傷者を出せり。
- 6 5月5日譏名の線に配備に就き昼夜兼行陣構築戦車障害の施設に任じ戦力の増強に努めたり。

戦闘経過の概要 其の4 自5月7日 至5月28日

—68—

2907

要図別紙其の3 省略

- 1 5月7日 1ケ小隊(久保寺小隊)は旅団命令に基き安里~松川、繁田川の線に至り戦車攻撃の命を受け同夜転進、夫々配備に付き工事諸施設設置に努めたり。
- 2 爾後中隊の編成を指揮班及び4ケ小隊編成とし1ケ小隊を3ケ分隊に編成となせり。
尚他部隊より将校梅津少尉1名の補充を受け第4小隊長に任ず
- 3 5月10日 中隊は松川南側30.2高地に進出し第3、第4小隊を配置し同地を確保せり。
- 4 5月10日 旅団命令に基き1ケ小隊(吉田隊)は旅団砲兵部隊の援護の命を受く、同夜隷下を離れ同隊の指揮下に入る。
- 5 5月15日 旅団命令に依り亀井曹長を長とする約2ケ分隊は斬り込隊要員として独混第15連隊の指揮下に入る。
- 6 各兵は所命の配置に就き地形地物を利用し各個に掩壕を掘開し掩蓋を以て掩ひ其の中に潜入し隠忍戦車の近迫するを待ちたるも好機少なく然も友軍の支援火器意の如くならず為に敵の弾圧により逐次其の兵力を消耗したり。
- 7 敵の物量を以て常に包圍的、集中的に陸海空協力して攻撃せり
- 8 5月24日 某部隊より更に将校1、兵100名の補充を受けたり。
- 9 5月25日 出崎軍曹の1ケ分隊は淺川附近の橋梁破壊並びに某部隊通過援護の命に依り同日転進せり。
- 10 中隊は全力を挙げて陣地を確保し担任地域の敵を攻撃死闘を繰返したり。
- 11 5月22日 讃名北側にありし中隊は軍方針に従い島尻南部に転進す。
- 12 敵の攻撃たるや実に昼夜の別なく間断なき砲爆撃の集中射に依り其の被害甚大なり中隊は本戦闘に於いて戦力の殆ど半数を失い

たり。

戦闘経過の概要 其の5 自5月30日 至6月26日

要図別紙其の5 (省略)

- 1 中隊は仲座の西側一帯に陣地を確保し陣地構築戦車障害設置等戦力の増強に努めたり。
- 2 先に負傷し後退せる軽傷将兵を夫々隊に復帰せしめたり。
- 3 6月4日 敵は早くも糸敷を奪取し前川、新城を冒し田原、湊川、具志頭に緊迫す。
- 4 6月6日 旅団命令により独混第15連隊の指揮下に入る。
- 5 6月8日 頃より猛攻を受く。
- 6 6月13日 敵は具志頭に進出せり。
- 7 敵は逐次高地方面より主攻撃を指向し攻撃し来たり。
- 8 6月15日 中隊は敵の重囲下に入る、同夜井上隊は斬り込を敢行し壮烈なる戦死を遂ぐ、中隊は敵の猛攻のため其の兵力殆ど皆無の状態なり。
- 9 6月16日 敵は強行突破を実施し遂に与座、仲座の線に進出せり。
- 10 爾後中隊は奪回攻撃を行いたるも遂に成功せず。
- 11 与座、仲座附近を突破せる敵は逐次兵力を増大し後方に攻撃を準備中なり。
- 12 中隊長以下残存数名は同地を死守しつつ戦死せり。
- 13 百千の障害を超越克服し断固実行したるも、秋正に我に利あらず此処に於いて中隊としての戦闘機能は消滅せり。
- 14 6月22日軍司令官及び参謀長自決せらるるを聞く、伝令に依り旅団の爾後の行動に関する命令を受領す。
- 15 6月26日独立混成第15連隊解隊と同時に中隊も亦解隊し本格的遊撃戦に移行せり。